

家庭における難質問の研究

村山貞雄

この學會で、父兄、特に兩親を困らせる幼児の質問の調査と、それに基く指導法について發表したく思う。

題目に使つた難質問とゆう言葉は、あまり使われない言葉であつて、普通には難問と云われるが、難問と云うと難問題とまちがうおそれがあるので、この言葉を使うことにした。

家庭教育が効果をあげるための重要な方法として、これまでに家庭教育に現れた種々の缺點を見出して、これらの缺點をなくする事が考えられる。そのために家庭教育の實態を調査し、どこに難點があるかを知らなければならぬ。

その一つの方法として、父兄（特に兩親）を困らせる子弟の質問の調査を行つた。この調査は二回の豫備調査を経た後、次のような質問書法によつた。

子供の難質問の調査

家庭でお子様がいる／＼な質問をして、父兄を困らせるこ

とがあると思ひます。最近お子様に質問せられて困つた事があれば、次の質問に答えて下さい。
先ず次の箱の下の欄に適當な事項を記入した後、七つの質問について、なるべく詳しく答えて下さい。

この下の欄に必ず記入して下さい。			
お子様の年齢	満 才	お子様の別 (適當なものを○) 男 女	住 所 (適當なものを○) 村町市都
父兄の卒業せられた學校の程度 (例、高小卒、女學校卒等)			
きかれた父兄の方とそのお子様との續柄(例母・祖父等)			

一、あなたを困らしたお子様の質問について、その内容(お子様の言葉)を書いて下さい。

- 二、お子様がその質問をせられた動機を書いて下さい。
- 三、その時、お子様の態度はどのようでしたか。
- 四、その時、あなたはどのように困つたのですか。
- 五、その時、あなたはお子様に對してどうしましたか。
(答の内容やあなたの態度を書いて下さい)
- 六、その結果、お子様はどのような態度をとられましたか
七、現在あなたは、どのように導いてやればよかつたと思
いますか。

「質問事項」のうち、第七の間には、本調査になつて、はじめてつけ加えたものである。又「被調査者の条件」のうち、父兄の年齢は第二次豫備調査までは入れたが、本調査では省くことにした。父兄の教養程度は最後まで問題に思つたが、一應入れてみた。

この結果二百二十六名の父兄から、最近難質問を受けたとゆう解答があり、それらの解答について、集計し、且つその導き方について考察した。その内容は表Ⅰと表Ⅱのごとくである。そのうち、幼児は四百二十一名である。

表Ⅰ

分類	内 容	子供全體	幼児
自然界	天體・氣象・地球物理・物象・動物 植物	36.6 %	%
文化財	物質文化財・精神文化財・言語・宗 教・教材	39.2 %	%

環 境	人間社會	自己に關するもの
自己の家庭・自己の家族・近隣學校	生及び性・死・精神・身體・他人の行動・他人の家庭・社會問題・社會の風俗習慣・政治及び國家	自己の智能と性格・自己の身體と容姿・自己の行動・自己の地位と身分
12.8 %	46.4 %	5.1 %
%	%	%

なお一言すれば、この調査の目的は、單に子供の興味や疑問の内容を知ろうとする子供の質問の心理的な調査と違つて、明かに教育調査である。しかし、單なる「子供の質問に關する調査」もこの研究の基礎になる資料として重要であるので、條件調査として施行した。そして、兩者の内容の相異などを兩親教育上興味の問題として研究した。(例えば性に關する質問は普通質問としては頻數が僅少であるが、難質問としては占めるパーセンテージが高いなど、いろいろな問題が現れている)

次に、第一に幼児が難質問を發する動機、第二にその態度第三に兩親が困る理由、第四にその態度、第五にその解答の内容について調査の結果を教育的見地から概観し、最後に兩親の模範的な指導の要點を述べてこの發表を結びたく思う。

一

第一に幼児が發問する動機についてみると、幼児が難質問を發する動機は、普通質問を發する動機と變つたものは殆ど

延的進化→		— 向上的進化 —→			表 I
社會的興味		II 思想的(哲學的)興味			
B 一般社會	C 國家社會(政治)	A 生及ビ性意識	B 死及ビ宗教意識	C 思想及價值意識	
					3-5;11
					6-7;11
		性=關スル言葉			8-8;11
成人社會への疑問		出生=關スル疑問	神及ビ死後=關スル單ナル考慮(否定的デハナイ)		9-9;11
同		同	神及ビ死後=關スル興味		10-10;11
成人社會への疑問ト好惡(例やみや)	國家への幼稚ナ關心	同	同		11-11;11
同	國家・政治ノ表面=對スル關心	出生=關スル疑問・世相(特異ナ男女關係)=對スル疑問	同	生活ノ價值	12-12;11
成人社會及ビ世相ノ批判	國家政治への關心	同	死後ノ靈魂ノ行方 宗教的思索	1. 生活ノ價值 2. 思想(主義)	13-13;11
社會ノ批判トソレ=對スル自己ノ態度(自我)	政治國際關係への關心	性生活=關スル疑問(生殖=關スル疑問デハナイ)	靈魂ノ有無ノ問題 神ノ有無ノ問題 比較宗教	人生ノ價值	14-14;11
社會ト自己社會惡=對スル批判 經濟生活ト自己ノ態度	政治・國際關係=關心(新聞・ラヂオヲ通ジテ)ト積極的方法		同	1. 人生ノ價值 2. 道德ノ因果律ノ矛盾=對スル疑問 3. 思想	15-15;11
	更ニ詳シイ内容ノ關心			2. 思想(主義)ノ比較	16-16;11
	同			同	17-17;11
(經濟問題)	(政治問題)			(思想問題)	18-18;11

		— 組織的進化 —→			— 外 —
		I 科學的興味			II
年齢	内容	A 經驗的知識	B 生活的知識	C 學科的知識	A 家庭社會
		3-5;11	1. 自然界(變化及變化ノ驚異來)ヘノ動作 2. 動物ノ動作 3. 科學的變化		
6-7;11	1. 自然界ノ興味 2. 動物 3. 科學的變化				特異ナ家庭ヘノ疑問
8-8;11	1. 自然界ヘノ思索	1. 英語會話 2. スポーツ用語 3. 日用品	1. 言葉ノ定義 2. 理科・數學・英語 3. 社會科		特異ナ家庭ヘノ疑問ト難題
9-9;11		2. スポーツ用語	1. 言葉ノ定義(少) 2. 理科・數學・英語 3. 社會科		同
10-10-11		同	2. 理科・數學・英語 2. 社會科		家庭ノ特殊性ヘノ疑問ト難題
11-11;11			同		同
12-12;11			同		同
13-13;11			同		同
14-14;11			同		同
15-15;11					同
16-16;11					
17-17;11					
18-18;11					

みられない。すなわち、條件調査として行われた「單なる質問」の調査と比較検討した結果、特異性を殆ど發見できなかった。故に、父兄が困る主要な原因は、幼兒の發問の動機には存在しないと考えられる。従つて、兩親教育における難質

問の指導は、質問の内容と幼兒の態度や能力について考察すればよいとゆう結果が一應である、これは幼兒期の難質問が青年期と非常に異なる點である。
なお動機の内容は、その場の知覺によつて生じる衝動的な

疑問が、あつとう的に多く現れている。故に、両親は、幼児の生活中に見聞する自然界の普通の現象について、簡単な知識を得ておくことがしばしば必要となる。

第二に質問する子供の態度をみると、一般に普通の態度で尋ねる事が多いが、感情的態度、科學的態度が現れており、願望的態度も少し現れている。感情的態度には、恐怖が多く現れており、喜びと憧れの他に極めて少しではあるが、疑惑的、反抗的なものがあり、その内容は教育的に注意を要すると考えられた。このうち、科學的態度は、單に不思議そうに尋ねる者と眞剣な態度で尋ねる者に大別できる。そして、以上の態度は難質問の前述の分類によつて夫々一定の傾向を示している。故に家庭教育にとつては、このように、質問の内容によつて、子供の態度に一定の傾向がある事を利用できる譯である。

なお、發問の態度には、衝動的なものと、前から考えていた事を衝動的にきぐものと、少し考えた後に尋ねる者と、熟考した後に尋ねる者があるが、幼児期には、純粹に衝動的なものが多く、熟考した後に尋ねる者が殆どないとゆう事が特徴である。

従つて教育的には、幼児期の衝動的質問をいかに導くかについで考察を進める必要がある。

第三に親の困る理由であるが、親が困る理由は、明かに親自身に原因があると思われれるものと、むしろ子供の方に原因があると思われれるものと、社會に原因があると考えられるもの

のに分類できる。

親自身に原因があると考えられる内容の大部分は、知識の缺乏によるもので、特に自然界の現象に關する内容に多く現れている。このように幼児期には自然界に關する難問が多くその中では知識の缺乏によるものが多いとゆう事實は、幼児の両親教育において自然界に關する知識の教育が必要であることを示すものである。

親自身の原因によるものは第二に、導き方に迷うものがある。これは例えば、科學的に導くか、情操的に導くかとゆうような問題であつて、性的内容のみでなく、幼児期にはあらゆる分野に亘つて存在し、家庭教育におけるこの問題の難しさと重要性を物語つている。(例、満月の中の兎の説明)又親自身に原因があるものの第三には、前に自分が云つたてまえ、言いにくいものや、自分に缺點があるために指導しにくいことがある。これは、教育的には問題が少い。

二二

次に幼児の方に原因があると思われれる内容には、あまり幼稚で導き方に迷うものや、連續質問があまりにしつこいものあるいは無理な願望を含む質問で答えられそうにもないものなどがあるが、その多くは父兄自身にも關係するところにこの内容の特徴が現れている。又、その内容の頻數が多いとゆう事が幼児の難質問の特徴であり、この事より幼児の両親教育には、難質問に對して導き方そのものの指導が必要である

とゆう重要な結論が生れる。

最後に、周囲の事情に原因があると思われるものは、家庭の特殊事情、社會國家の事情などであるが、幼児期には、頻數が比較的少いのが特徴である。

なお、この他に、客に對して、「このおぢさんの頭はどうしてはけているの」とゆうように禮儀的・時間的なものや、「となりの義ちゃんとはどうして遊んではいけないの」とゆうように非常に複雑なものが存在している。

以上の分類は、更に理由の深淺からこれを眺めるとき、解答そのものが分らぬ事によるものと、更に、いろ／＼な解答は分つていてもどう解答をしてよいか迷うものと、更に、解答の内容は分つていても答え方が分らぬものと、更に、解答の内容や答え方が分つていても、子供の態度の導き方が分らぬものなどに區別せられる。教育的にみた時には、この分類もなかなか興味のあるものである。

要するに難質問とは親が困る事によつて生じるのである以上、親の困る理由は、難質問の中核的な研究として重要なものである。

第四に、両親の態度について最も注目すべきものは指導に對する父兄の熱心さの別である。すなわち極めて投げやりの態度をとる者から、連續質問に對しても熱心に解答し、自ら讀書又は適當な人に質問して研究するに至る者まで、熱心さの程度が廣範圍に亘つて存在している。私はこれをその具體的な内容によつて十段階に層をつけて集計したが、その結果

三段階以下に熱心の程度の低い父兄の頻數は教養の低い父兄と多子の父兄の中に多く現れている。

四

以上のように態度が熱心でない事は家庭教育としてもとり效果的でないが、最も非教育的に現れているのは、單に熱心でないという事ではなく、反對的態度をとつた場合である事が注目せられた。例えば、六歳の女兒が「お星様はどうしてきれいなのか」ときいた時に、「そんな事を考えるひまにいろはでもおぼえてやがれ」とゆう例のように、叱責したり、六歳の男児が「赤ちゃんはどこから生れるのか」と尋ねた場合「あは、ばかな事をきくわい」と質問を嘲笑したりする例のごときである。このように叱責したり、嘲笑する事は、熱心度の測定では零の段階において、子供の態度より推察した效果は、明かにマイナスの符號を持つて構成せられている。

一方、熱心な態度とは、單に眞面目に答える態度を以て七とし、それ以上を指して考へた。この態度は、教養の高い母親や長子の場合に多く現れている。

しかし、熱心な態度が必ずしも、教育効果的であるとゆう連断はできない。

第五に両親の解答の内容であるが、この場合に最も問題となるのは、明かに異つた解答の内容が、二つ以上ある場合、幼児自身の理解力や情操性を社會の要求や今後の知識の獲得

との相關の問題である。

解答の内容を決定する大切な契機として、

(一) 一應納得させること、

(二) 將來の知識の獲得に不都合がないように、すなわち科學的に答えることと、

(三) 更に幼児の知識が發達するように導くこと

が考えられるが、幼児の場合には、特にその關係が難しく、兩親が困る主要な原因となつてゐる。

内容を決定する原則を簡單に云えば、納得させる自信がある場合は、科學的説明法をもつて答え、科學的説明法では納得させる自信がない場合と、情操教育をねらう場合に限つて神話的説明法か擬人的説明法、又はこれらと錯綜したおとぎばなし的説明法を用いるのがよい。神話的説明法と擬人的説明法は夫々一長一短がある。

しかし、年齢が成長し、納得内容が變つたからといつて、内容をあまりに明かに變更することは難しいから、なるべく初めから説明のし方に努力し、第一質問から科學的説明法を行うのがよく、もし科學的説明が非常に必要な場合は、「もう少し大きくなつたら分りますからよく勉強しましょうね」と逃げる方法を使う。

なお導き方について詳しくは稿を更めて述べよう。



日本保育學會第一回大會研究發表特集號(幼児の教育・第四八卷、二・三號)御希望の方は、發行所フレール館には品切ですから、左記宛御申込下さい。多少残本ありますからお願ひいたします。
(定價四〇圓・送料五圓)
東京都港區麻布盛岡町一ノ五
愛育研究所内
日本保育學會事務局